

競技注意事項

1 競技規則について

本競技会は、2018年度日本陸上競技連盟競技規則、本大会要項及び競技注意事項を適用する。

2 練習について

- ① 練習は、係員の指示により行うが、立入禁止場所を守ること。
- ② 投てき練習は、ウォームアップ場の指定された場所で係員の指示に従って行うこと。
- ③ 走高跳、棒高跳は、後に示す招集(第1チェック)のあと、係員の指示に従って本競技場ピットで練習できる。
- ④ 雨天の場合のみ、雨天練習場を開放する。

3 競技者の招集について

- ① 招集所は、第2陸上競技場倉庫に設ける。
- ② 招集開始時刻と完了時刻は、当該種目の開始時刻を基準に、次の通りとする。

		招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技		競技開始の35分前	競技開始の20分前
フィールド競技	投てき	競技開始の55分前	競技開始の40分前
	跳躍	競技開始の55分前	競技開始の40分前

③ 招集の手順

- (ア) 競技者は、招集開始時刻に、招集所に掲示してある出場競技者一覧表に、本人または代理人がチェック(自分のナンバーを○でかこむ)をする。
- (イ) 競技者は招集完了時刻には招集所で待機し、最終点呼を受ける。その際、競技者係にナンバーと競技用靴、衣類の商標の確認を受ける。
- (ウ) 2種目(トラックとフィールド)を同時に兼ねて出場する競技者は、あらかじめ、その旨を本人又は代理人が当該競技の招集完了時刻前に、競技者係主任に申し出ること。審判長がやむを得ないと判断した場合に限り、フィールド競技のみについて試技順を変更して出場させることもある。
- (エ) 招集時刻に遅れた競技者は当該競技に出場できない。
- (オ) 四種競技出場者は最初の種目のみ、招集所で3の②に従って競技者係の点呼を受けるが、以後の種目については、招集完了時刻5分前までに競技場所に集合して点呼を受け、係員の指示に従うこと。
- (カ) 棒高跳の最終点呼は本競技場のピットで実施する。

4 競技運営について〔競技運営上、競技日程を変更することもある〕

- ① 予選におけるトラック競技の走路順、フィールド競技の試技順はプログラム記載の順序で表す。決勝については、主催者が公平に組合せをし、その結果を招集所及び掲示板に掲示する。
- ② 男女の走幅跳・砲丸投は予選通過標準記録を設ける場合がある。予選通過標準記録を超えた者が12名に満たなかった場合は、競技規則第180条⑩を適用する。またフィールド競技において2ピットが必要と主催者が判断した場合は2つの競技場で行う場合がある。
- ③ 男女のトラックレースの予選は全てタイムレースとし、(100m～800m)は上位8名、(1500m～3000m)は上位12名が決勝に進出できる。
- ④ 同タイム抽選集合の正式通告後10分以内に第2会議室に集合しない場合は棄権とみなし処理する。
- ⑤ リレーのオーダー用紙は予選、決勝とも招集完了時刻1時間前までに招集所に2部提出する。提出後、オーダーに変更が生じた場合は、招集完了時刻までに変更届を招集所に提出する(用紙はプログラム末尾のものを使うこと)。
- ⑥ (ア) リレーの競技者は、ダッシュ・マークとして1カ所自分のレーンにチョークや類似品を使わず粘着テープによって印をつけてもよい。その印は自チームの競技者が必ず取り除くこと。また、テープの色はコースに使用していない色を使用する。
(イ) リレーのメンバーは同一のユニフォームを着用すること。
(ウ) リレーチームの編成は、所属チームのメンバーでプログラムに記載されている競技者であれば出場することができる。ただし、出場するメンバーのうち2人以上はリレーに申し込んだ競技者でなければならない。
- ⑦ 短距離競走では、競技者の安全のため、フィニッシュ到着後も自分に割り当てられた走路(曲走路)を走る。
- ⑧ 競技者は、その競技をする以外は、トラック及びフィールドに立ち入ることができない。
- ⑨ 競技者に対する助力については、十分気をつけること(競技規則第143条)。なお同第117条には、黄色カードの提示により警告、赤色カードの提示によって失格退場となる項が規定されている。
- ⑩ 100m、ハードル競技において、条件によっては、バックストレートを使用することがある。
- ⑪ 不正スタートについては1回で失格とする。混成競技においては、各レースでの不正スタートは1回のみとし、その後不正スタートした競技者は、すべて失格とする。また、スタートの「セット」の合図の後、一度静止はしたが、スターティング・ブロックから足が離れようとしていない、あるいは手が離れようとしていない動作(ピク付き)があった場合は、警告とせず、注意とする。

5 競技場への入退場について

- ① 入退場はすべて係員の誘導によること。
- ② フィールド競技の競技者は、審判員の指示に従って退場すること。
- ③ 入賞者は係員の指示によって入賞者控室に誘導される。

6 ナンバーカードについて

- ① ナンバーカードは正規のものを2枚各自が準備すること。走高跳・棒高跳の出場者は胸又は背の一方につけるだけでよい。また走幅跳・三段跳は胸につけるだけでもよい。
- ② トラック競技に出場する競技者は、腰ナンバー標識をランニングパンツ右側の上部やや後方につけること。腰ナンバー標識は各校で用意する。但し、800m以上の種目においては、主催者で準備する。

7 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は次の通りとする。

種目	性別	練習	競技	技
走高跳	男子	1m35	1m40 - 1m45 - 1m50 - 1m55 - 1m60 - 1m65 - 1m70	(あと3cm刻み)
	女子	1m20	1m25 - 1m30 - 1m35 - 1m40 - 1m45	(あと3cm刻み)
棒高跳	男子	2m20	2m30 - 2m40 - 2m50 (3m00まで10cmきざみ)	(あと5cm刻み)
四種競技 (走高跳)	男子	1m30	1m35 - 1m40	(あと3cm刻み)
	女子	1m15	1m20 - 1m23 - 1m26	(あと3cm刻み)

降雨その他の条件により、審判員主任の判断で変更することがある。

第1位及び第4位が同成績の場合、順位決定のためのバーの上げ下げは走高跳で2cm、棒高跳では5cm単位とする。

8 用器具について

競技に使用する用器具は、すべて主催者が用意したものを使用すること。但し棒高跳用ポールに限り、個人所有のものを使用することができる。個人所有のポールは競技開始前に現地で検査を受け合格したものに限る。

9 表彰について

- ① 各種目の優勝者には賞状とバッジを、第2位～第8位までには賞状を授与する。
- ② 各種目の表彰は決勝終了後ただちに行うので、3位までの入賞者は係員の指示に従い、入賞者控室で待機する。4位以下は第2会議室で賞状を受け取る。

10 商標について

原則として競技場内に商社名、商品名のついた物品を持ち込むことはできない。規定外のものについては、競技役員が処理する。(IAAF憲章第18条付則)

11 引率者及び監督について

本競技会に出場するチーム・選手の引率者、監督、(部活動指導員)、外部指導者(コーチ)、トレーナー等は、部活動の指導中における暴力・体罰・セクハラ等により、任命権者又は学校設置者から懲戒処分を受けていない者であることとしている。校長はこの点を確認して、大会申込書を作成する。なお、外部の指導者は校長から暴力等に対する指導措置を受けていないこととする。

12 抗議について

競技の結果または競技実施に関する抗議は抗議に関連する種目の同じラウンドで競技している競技者またはチームに限りすることができる。競技規則146条に従って定められた時間内に、競技者自身またはチームを公式に代表する者が審判長(本部席の担当総務員に申し出る)に対して口頭で行い、指定された控え室で待機する。

13 個人情報の取り扱いについて

- (1) 主催者は、個人情報の保護に関する法律及び関連法令等を遵守し個人情報を取り扱う。なお、取得した個人情報は、記録発表、公式ホームページその他競技運営及び陸上競技に必要な連絡等に利用する。
- (2) 大会の映像・写真・記事・個人記録等は、主催者及び主催者が承認した第三者が大会運営及び宣伝等の目的で、大会プログラム・ポスター等の宣伝材料、テレビ・新聞・雑誌・インターネット等の媒体に掲載することがある。
- (3) 大会の映像は主催者の許可なく第三者がこれを使用すること(インターネット上において画像や動画を配信することを含む)を禁止する。

14 提出用紙一覧

提出書類	提出先	提出時間
リレーオーダー用紙	競技者招集所	招集完了時刻の1時間前
記録証明書交付願	競技場正面入口右側の第2会議室	競技終了後随時

15 大会申し合わせ事項

- ① 本大会は、第45回全日本中学校陸上競技選手権大会の指定大会とし、参加標準記録突破者は、出場権を得る。但し、他の競技で県総体および四国総体に登録メンバーとして参加し、全国大会の出場権を得たものは、その競技を優先する。また、都道府県で標準記録の到達者が10名に満たなかった場合は推薦による10名(男女別は問わない)以内の参加が認められる。ただし1人1種目で四種競技は除く。
- ② 本大会は、第56回四国中学校総体陸上競技予選を兼ねる。各種目上位4位(ただし男子1年砲丸投を除く)とリレー2位までが出場権を得る。
- ③ 四国総体の資格取得者は、その学校引率教員が中体連陸上競技専門部長に手続きをすること。
(大会終了後、第2会議室で申込書類を必ず受けとること)
- ④ 四国総体の出場権を確定するため、試技を追加する場合がある。
- ⑤ 四国総体出場制限について
 - (ア) 1人2種目とする。但し、リレーは除く。
 - (イ) 学年別種目は、該当学年の者しか出場できない。

16 その他

- ① 記録証について
記録証の交付を希望する競技者は、記録証交付願及び交付料(500円)を添えて申し込むこと(記録証交付願は受付にて用意する)。
- ② 救護・保護について
競技中の傷害については、主催者が応急手当ををする。その後の処置については、スポーツ傷害保険による。なお、当協会はこの保険への加入を義務づけているので、未加入の競技者は至急に加入手続きをすること。
- ③ 応援幕は、メインスタンド及びサイド・バックスタンドの最前列の手すりには取りつけないこと。
- ④ 不明の点は本部(インフォメーション係及び専門部長)に問い合わせること。
- ⑤ 第2競技場の使用方法については、係員の指示に従うこと。
- ⑥ 競技場は常に清潔保持につとめ、紙くず等は各自持ち帰って処理すること。また、荷物等所持品は各自が責任を持って管理し、盗難には十分注意すること。
- ⑦ プログラムに余裕があるときは、販売する。
- ⑧ 悪天候等の理由により、競技会が競技開始後に中止になった場合は参加料の払い戻しを行わない。

全日本中学校陸上競技選手権大会参加標準記録

男子(13種目)		女子(10種目)	
種目	写真判定	種目	写真判定
100m	11" 20	100m	12" 53
200m	22" 75	200m	25" 80
400m	51" 60		
800m	2' 00" 50	800m	2' 16" 50
1500m	4' 08" 50	1500m	4' 38" 00
3000m	8' 57" 00		
110mH	15" 00	100mH	14" 80
走高跳	1m85	走高跳	1m60
棒高跳	4m00		
走幅跳	6m55	走幅跳	5m45
砲丸投(5.000kg)	13m00	砲丸投(2.721kg)	12m50
四種競技	2,500点	四種競技	2,630点
4×100m リレー	各都道府県1チーム (学校単独チーム)	4×100m リレー	各都道府県1チーム (学校単独チーム)

(追風参考記録は対象としない)